

第3章 利用者の意向調査

前提条件を踏まえ、盛岡南公園野球場（仮称）の利用が見込まれる関係団体および既存野球場の管理者等に対してニーズ調査を実施した。

1. 調査の目的

- (1) 新球場を利用することが想定される企業及び団体が、新球場に求める事項を把握する。
- (2) 現盛岡南公園の施設利用者が、公園拡張に関連し盛岡市に要望する事項を把握する。

2. 調査対象者

下記計 10 団体に対しヒアリング調査を実施した。

(1) プロ野球球団

球団 A、球団 B、球団 C、球団 D

(2) 県内野球団体

硬式野球団体 A、硬式野球団体 B、硬式野球団体 C、軟式野球団体 E、軟式野球団体 F

(3) プロモーター

プロモーター A

3. 調査の方法

対面のヒアリングによる。

4. ヒアリング事項

調査対象者にヒアリングした事項は、以下のとおり。

- (1) 盛岡市/岩手県及び基本構想に対する印象・理解
- (2) 既存球場の使い勝手・課題について
- (3) 計画地に対する印象
- (4) 新球場に求める事柄（コンセプト、機能、設備、施設など）
- (5) 機能に対する具体的な提案
- (6) 新球場整備時に想定される課題
- (7) 事業に対する関心、利用に関する意向等

5. ヒアリング調査結果

既存球場・新球場それぞれについて、ヒアリング結果を整理した。

(1) 既存球場に対する意見

1) 施設利用に対する需要

硬式・軟式ともに需要が高いことが明らかになった。岩手県営野球場においては、硬式・軟式双方の大会開催日程等が重複することが多く、各団体が場所の確保に苦心しているとの意見が集まった。周辺で硬式野球大会が実施できる球場が少ないため、利用は硬式野球（プロ野球、高校野球）が優先されやすい傾向があることが分かった。そのため、特に軟式野球団体において予約が確保困難な状況にあり、新球場が整備されてからも既存球場を残してほしいとの要望もあった。

盛岡市営野球場においても、土日を中心に盛岡市野球協会（軟式野球）等によって利用されており、高い需要があることが明らかになった。平日の利用率は高くないが、市民のための球場として使い続けたいとの意見があることが確認できた。

関係団体等から寄せられた主な意見

- 県営野球場の利用については、高野連、社会人野球（企業チーム、クラブチーム）など硬式野球利用の団体と利用がバッティングすることがある。せっかく調整しても、土日はプロ野球と重なってしまうことがある。周辺に硬式野球ができる球場が少ない。
- プロ・高校野球・社会人野球が優先され、軟式野球の団体が利用できる機会が少ない。
- 市営野球場の利用については、土日は盛岡市野球協会が主。利用率は高い。
- 県内でもっとも古い球場であり課題は多いが市民にとっての憧れの場所。レガシーとして残してほしい。
- 既存の2球場が今後どうなるのか関心が高く、大会運営を考えると規模縮小でもよいので残してほしい。既存球場が廃止になると活動方針を変えなければならない。

2) ハード面の課題

県営・市営野球場ともにグラウンドコンディションや照明、コンクリート壁などの設備に改善の必要性があるとの意見が複数寄せられた。また、県営野球場は公式戦の規則である「公認野球規則」に定められた大きさを満たしていないこともあり、プロ野球の大会会場として今後継続利用されない可能性があることも分かった。

関係団体等から寄せられた主な意見

- 県営野球場は、使い勝手が悪いとは思いますが、古いので仕方ない。
- 県営野球場は土の球場のため、グラウンドコンディションが天候に左右される。
- 県営野球場は課題が多数あると認識しており、むしろ H35 年の新球場開業までプロ野球球団が継続して開催するかも未知数である。課題を列举すると、グラウンド（土、芝生）、施設の雨漏り、コンコース幅が狭い、売店スペースがとれない、森が近く虫が多い、照明の高さが低い、照度が低い、交通アクセスが十分でないなどである。
- 市民球場の課題は、地面が平らでない、コンクリート壁のためたびたびけが人が出ている、狭い、住宅地に囲まれているため音を出すことが出来ない、等。

3) 球場使用料に対する意見

集客が見込まれる硬式野球団体においては、参加者からの収入で球場の使用料をまかなえることがあるため、使用料に対する不満は見られなかった。一方、軟式野球の団体からは、使用料が高いと認識されており、低廉に抑えて欲しいとの意見が挙げられた。市民利用の視点に立つと、新球場整備後も、硬式野球と軟式野球の共存に配慮する必要がある。

関係団体等から寄せられた主な意見

- 使用料が高いのはやむを得ないと思っている。都市対抗野球の時は、球場の使用料を参加者から回収できている。
- 使用料が高いという印象はない。減免を活用させてもらっている。
- 値段が高く軟式野球の団体が利用できる機会が少ない。

(2) 新球場整備に対する意見

1) コンセプトに対する期待

本計画のコンセプトに対して好意的な意見が寄せられた。スポーツツーリズムの実現に不可欠な機能を導入すること、ボールパークの名にふさわしい球場としてのしつらえを求める意見があった。県内の野球団体を中心に、利用者の声を反映した地域のシンボルとなるような新しい球場を実現してほしいという意見とともに、早期に実現してほしい、との意見が多数寄せられた。またプロ野球球団においては、野球振興の観点から、個性的な球場の新設を望む意見が得られた。

関係団体等から寄せられた主な意見

- 野球場新設の早期実現を望む。野球関係者の憧れになる球場としてほしい。
- ボールパークにふさわしく、普通の球場にないものを期待する。野球は一種のお祭りとして市民権を得ている。
- スポーツツーリズムの推進に不可欠な機能、設備を有する施設にしてほしい。例えば高速道路とのアクセス改善、東北や全国大会などを受け入れられる高規格な施設とすることなど、広域の利用者・観戦者を意識することが必要。
- 野球振興はプロ野球にとって共通の課題。野球をやる人が目指すような施設にできるとよい。
- 地方球場の新設にあたっては、個性的な球場となることを期待している。
- 地方球場はどこも同じようなイメージがある。行ってみたいくないような特色が出せるかがポイントになるだろう。

2) 施設利用に対する需要

県内の野球団体においては、土日を中心に可能な限り多く利用したいとの意見が集まった。高規格であるほど一般利用者の予約がとりづらくなるため、県民・市民が広く利用できるような施設が期待されている。利用ニーズが特定の日時に集中することが想定されるため、多目的広場等にサブグラウンドを設置する可能性も検討が有用であることが示唆された。これに対し、大会等が開催されない平日の利用ニーズが低く、通年での稼働率向上に課題があることが把握できた。

プロ野球球団においては、各球団が地方球場での主催試合数を大幅に増やすことは考えにくく、新球場で試合を開催するためにはスポンサーの存在が不可欠であるとの意見が得られた。また、コンサート等のイベントについては、プロモーターより同地出身の歌手が大ブレイクするなど、特別な要因がない限り大きな需要は想定しづらいと指摘を受けた。

関係団体等から寄せられた主な意見

(県内の野球団体)

- 利用頻度としては、可能な限りたくさん使いたい。
- 硬式野球に対応した球場が少ないため、球場の質がよくなるほど県民・市民が予約を取りづらくなるというジレンマがある。市民が使えるような運営方針を設定してもらえたいことを望む。
- 空き地に軟式専用のグラウンドを設けてもよいのではないか。
- 利用率の向上策として、平日の合宿誘致のニーズは現時点で分からないが、GWに合宿を実施すれば人気が出るのではないか。長期休暇であれば学校の利用が見込めるかもしれない。

(プロ野球球団)

- 地方球場でのプロ野球一軍公式戦の開催は、現状では平成29年の日程（東北5県+東京D）が最大であるが、その中で各県ごとの開催試合数は0~2試合の中で変動する可能性がある。
- 地元選手がいる地域であれば開催する理由にはなる。ただし、地盤があるわけではないので、自治体やマスメディア等の協力は不可欠。

(イベント興行)

- イベントについては、盛岡ではアリーナでも数年に1回程度の開催であり、特別な理由（同地出身の歌手が大ブレイクするなど）が無い限り、3万人規模の野外コンサートの実施は想定しにくい。

3) 計画地の立地特性

周辺は、田園を始めとした自然的な土地利用が多いが、一部住宅が存するため、近隣の住宅街への配慮が必要となる。騒音やファウルボールの危険回避等、地域へ配慮する必要があるとの意見が集まった。

関係団体等から寄せられた主な意見

- ファウルボールの危険回避を十分検討してほしい。
- 若干ながら周辺に住宅があることが気になり。

4) 計画地の交通アクセス性

県内の野球団体からは、盛岡南公園への交通アクセスの良さが評価された。

一方で、広域から大規模な集客を想定するプロ野球やイベント関係者からは、アクセスがよいという認識はされていない。特に計画地周辺の道路の脆弱性が指摘されており、周辺道路の拡幅等の対応可能性を検討する必要がある。

関係団体等から寄せられた主な意見

- 盛岡南公園の交通アクセスはよい。
- インターからは近いが、概ね県営野球場の立地と集客的な面では変わらないと考えられる。
- 周辺道路交通に不安がある。プロ野球終了後は大混雑になるのでは。道路の拡幅まで検討してほしいが、少なくとも公園からの出口は複数個所必要。
- 鉄道での輸送に際し、鉄道事業者に増便・増結の依頼を行うことがあるが、どれほど増便・増結の可能性があるのか確認が必須である。

5) 施設に対する具体的な要望

ア 野球場

球場の正面前に広場を確保できる配置とすること、観客席とグラウンドの距離を臨場感に配慮し近接させること、バリアフリー機能を確保すること等、具体的な要望が得られた。

関係団体等から寄せられた主な意見

- 向きの計画にあたっては、外野手目線、ベンチ目線、投手目線、打者目線等で直射日光の影響を（日影図のように図面に落とし込み）把握した方がよい。
- 正面前が一番盛り上がりを見せるため、正面前の広場を広く取ってほしい。
- 観客席とグラウンドはNPBの規程の範囲内で近づけたほうが良い。近づけると自然と観客席の角度は70～80度になるのではないかと。
- スタンド断面の角度は外野は可能な限りフラットに近いほうが良い。内野席も観客席に近い側は緩く、外側がやや急になるイメージである。
- スタンドの角度は急すぎないほうが良い。野球は全体を俯瞰するよりも投手＝打者に視線が集中する。22～23°程度にして、座席を前の列と互い違いにして見やすくするなどの工夫も求められるのではないかと。
- フェールグラウンドを狭くすると試合前練習がしにくくなる恐れがあるが、客席の臨場感は高くなるため、追加的に設置できるフィールドシートを設置するのがよいのではないかと。
- バリアフリーと、エレベータの設置は必須である。

イ 屋内練習場

計画されている仕様であれば十分な広さが確保される、との好意的な意見が集まった。さらに縦横に5m程度広く確保されると、より使い勝手がよいとの意見も得られた。

関係団体等から寄せられた主な意見

- 屋内練習場のスペックは十分である。高さは16m必要である。
- 屋内練習場は多様な活用が出来そうなので、非常に好い印象を持っている。
- 練習場は55m×55m程度（内野+ α ）の広さがあるとより使い勝手がよい。
- 地方球場は屋根が無いことが多いため、屋内練習場の有無は試合開催の大きな判断材料となる。

ウ 駐車場

1000台の駐車場で充足するとの意見が得られた。ただしプロ野球や高校野球など、集客性が高いイベントの際は1000台以上の駐車場が必要であると指摘されており、近隣の公設市場の駐車場を臨時駐車場として活用すべきとの意見が寄せられた。また、バスやイベント時の搬出入トラック等、大型の車両に対応した動線・駐車場計画が必要であるとの意見が得られた。

関係団体等から寄せられた主な意見

- 地方球場は自家用車での来場が多く、1,000台では足りない印象。山形での主催試合では2千台の駐車枠がすぐに埋まり、路上駐車や近隣駐車場等も含めれば3千～4千台の潜在的な自家用車需要があった。
- 高校野球は来場者数が多い。よって、駐車スペースはいくらあっても足りないという印象。地区大会で1,000人、県大会で2,000人ほどの来場者数が見込まれる。
- バス用の駐車場も必要。（6～7年後、都市対抗野球の東北大会が岩手開催になる予定であり、その時には大型バスが3台来ることになる）
- 駐車台数確保のため、中央市場の駐車場利用を検討すべき。
- 駐車場は距離を離して分割した方が運用しやすい。
- 球場内に11tトラックが乗り入れられるようにしてほしい。

エ 付帯施設

役員席や監督・選手控室、会議室等、諸室は多いほどよいとの意見が集まった。設備については、諸室や屋外において電源・水道・通信設備等を充実させることが望まれている。また、プロ野球の試合開催には出店スペースとその動線確保が重要である。

ヒアリング内容を踏まえ、具体的な施設配置を検討する際には、利用者視点を取り入れることが望ましいと言える。

関係団体等から寄せられた主な意見

- 会議室等、部屋数は多いことに越したことはない。
- 大会の日は複数試合を行うため、選手控え室は最低 $2 \times 2 = 4$ 室必要である。
- 主催側（一塁側）には、ベンチからホーム側に向かって順番に、監督室（2～3名用）、コーチ室（10名用）、球団本部（社長や代表等が観戦、5名用）を有するのが理想的である。（ビジター側は球団本部は無くてもよい）
- トレーナー室は広い方がよい。審判室は一つでよい。試合進行はアナウンスによるところが主であるため、放送記録室の隣に本部室が必要となる。
- 出店のスペースも必要。動線上にあることが重要だが、ゲートをどこに設置するかにもよる。コンコースの面積が十分であれば、中に設置する場合もある。
- スタンド下の諸室において、コンセントを十分設置してほしい。
- 通信環境が重要である。近年ではどの球場でもwifi環境を有し、多くの関係者はパソコン作業をしている。
- 電源、水道等が屋外、多目的広場にも引けるようにしてほしい。

6. ヒアリング調査結果のまとめ

(1) 既存球場に対する意見

- 硬式・軟式ともに需要が高い施設であることが分かった。岩手県営野球場においては、周辺で硬式野球大会が実施できる球場が少ないため、特に軟式野球団体において予約が確保しづらい状況にあることが把握できた。盛岡市営野球場においても軟式野球を中心に高い需要があり、継続利用の要望があった。
- 既存の球場を残置する場合、グラウンドコンディションや照明、コンクリート壁などの設備に改善の必要性がある。
- プロ野球の大会会場としては、今後継続利用しない可能性がある。
- 集客の見込まれる硬式野球団体においては使用料に対する不満は見られなかったが、軟式野球の団体において使用料が高いとの認識があった。市民利用の視点に立つと、新球場整備後も、既存の球場の活用を検討する必要性がある。

(2) 新球場整備に対する意見

- 整備コンセプトに対しては好意的な意見が多数寄せられた。
- スポーツツーリズムの実現に不可欠な機能を導入すること、ボールパークの名にふさわしい球場としてのしつらえを求める意見が集まった。
- 施設利用の需要については、土日を中心に可能な限り多く利用したいとの意見が集まった。高規格な野球場ほど一般利用者の予約がとりづらくなるため、多目的広場等にサブグラウンドを設置する可能性の検討も有用であることが示唆された。
- 一方で、大会等が開催されない平日の需要が低く、通年での稼働率向上に課題がある。プロ野球球団においては、各球団が地方球場での主催試合数を大幅に増やすことは考えにくく、新球場で試合を開催するためにはスポンサーの存在が不可欠であるとの意見が得られた。コンサート等のイベントについては、プロモーターより特別な理由がない限り大きな需要は想定しづらいと指摘を受けた。
- 周辺は自然的な土地利用が多いが、一部に住宅が存することから騒音やファウルボールの危険回避など、近隣の住宅街への配慮が必要となる。
- 県内の野球団体からは盛岡南公園への交通アクセスが評価されたが、広域から集客を想定するプロ野球やイベント関係者からは、アクセスがよいという認識は得られていない。特に計画地周辺の道路の脆弱性が指摘されており、周辺道路の拡幅等、アクセス性を向上させることが望ましい。
- 施設計画に対し、具体的な要望が多数得られた。駐車場や諸室の構成だけでなく、電源・水道・通信等の設備を充実させることが望まれている。また、プロ野球の試合開催には出店スペースとその動線確保が重要である。具体的な施設配置を検討する際には、これらの利用者視点を取り入れることが望ましい。